

化学物質等安全データシート(MSDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	:UVink Washing Liquid
製品コード	:SPC-0371FS
会社名	:株式会社ミマキエンジニアリング
住所	:長野県東御市滋野乙2182-3
担当部門	:技術本部
メールアドレス	:ink@mimaki.com
電話番号	:0268-64-2413
FAX番号	:0268-64-5580
緊急時の電話番号	:0268-64-2281
	:(財)日本中毒情報センター 中毒110番
	*一般市民専用電話
	(大阪)072-727-2499 365日 24時間対応
	(つくば)029-852-9999 365日 9~21時対応
	*医療機関専用電話
	(大阪)072-726-9923 365日 24時間対応
	(つくば)029-851-9999 365日 9~21時対応
(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合)	
推奨用途及び使用上の制限	:UV硬化型インク、インクジェットプリンター用

2. 危険有害性の要約

[GHS分類]

物理化学的危険性	
引火性液体	:区分外
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	:区分5
皮膚腐食性/刺激性	:区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	:区分2A
呼吸器感作性	:区分1
皮膚感作性	:区分1
環境に対する有害性	
水生環境有害性(急性)	:区分1
水生環境有害性(慢性)	:区分1

上記で記載が無いものは、分類できない、分類対象外

[GHSラベル要素]

絵表示



注意喚起語
危険

危険有害性情報

H303 飲み込むと有害のおそれ

化学物質等安全データシート(MSDS)

- H315 皮膚刺激
- H319 強い眼刺激
- H334 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
- H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H400 水生生物に非常に強い毒性
- H410 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書

[安全対策]

- P264 取扱後は手、眼をよく洗うこと。
- P280 保護手袋、保護衣、保護眼鏡(ゴーグル型)、保護面、保護マスクを着用すること。
- P261 ガス、ミストの吸入を避けること。
- P285 換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
- P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- P273 環境への放出を避けること。

[応急措置]

- P312 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- P302+P352 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で洗うこと。
- P321 特別な処置が必要である(4.応急措置要参照)
- P332+P313 皮膚刺激が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。
- P362 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P337+P313 眼の刺激が続く場合:医師の診断、手当てを受けること。
- P304+P341 吸入した場合:呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P342+P311 呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること。
- P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。
- P391 漏出物を回収すること。

[廃棄]

- P501 内容、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

[その他の危険有害性]

- ・高温になると引火、燃焼する恐れがある。
- ・飲み込むと急性の有害のおそれがある。
- ・皮膚を刺激する恐れがある。
- ・重篤な眼への刺激。
- ・吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれがある。
- ・アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれがある。
- ・水生生物に非常に強い毒性がある。
- ・長期的影響により水生生物に非常に強い毒性がある。

3. 組成、成分情報

単一物質・混合物の区分 :混合物
成分及び含有量

成分名	含有量 [%]	官報整理番号	CAS No.	備考
アクリル酸エステル	99%以上	あり(化審法番号)	あり	

化学物質等安全データシート(MSDS)

		あり(安衛法)		
その他	1%未満			

4. 応急措置

吸入した場合

- ・気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時には、医師に連絡すること。
- ・嘔吐が自然に生じたときは気道への吸入がおきないように身体を傾斜させる。
- ・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

- ・付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
- ・外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
- ・汚染された衣類をとりぞくこと。

目に入った場合

- ・直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
- ・まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- ・眼球を傷つける可能性があるのでこすらない。
- ・直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

- ・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・嘔吐物は飲み込ませないこと。
- ・医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

応急措置をする者の保護

- ・適切な保護具(保護メガネ、防護マスク、手袋等)を着用する。
- ・換気を行う。

医師の診断が必要な場合

- ・この容器のラベルに記載された注意事項又はMSDSを示すこと。

5. 火災時の措置

消火剤

- ・炭酸ガス、泡、粉末、設備的に可能であれば水噴霧も可。

使ってはならない消火剤

- ・水(棒状水、高圧水)

特有の消火方法、消火を行う者の保護

- ・適切な保護具(耐熱性着衣等)を着用する。
- ・火災により有毒ガスやヒュームが発生するので、適切な呼吸用保護具(送気マスク、自給式呼吸器等)を着用する。
- ・可燃性のものを周囲から取り除く。
- ・指定の消火剤を使用すること。
- ・高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。
- ・消火活動は風上より行う。

化学物質等安全データシート(MSDS)

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・作業際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
- ・周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
- ・付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。
- ・着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- ・屋内の場合、処理が終わるまで適切な換気を行う。

環境に対する注意事項

- ・河川への排出等により、環境への影響を起さないように注意する。
- ・万一、河川公共水路等に流れ込んだ場合は、直ちに地方自治体の公害担当者に報告する。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- ・漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置すること。
- ・衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
- ・乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- ・容器は注意して取扱う。
- ・使用時には飲食しない。
- ・換気の良い場所で取り扱う。
- ・加熱すると爆発の恐れがある。
- ・周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- ・作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
- ・工具は火花防止型のものを使用する。
- ・皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入ったりしないよう保護具を着用する。
- ・取扱い後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
- ・作業中のコンタクトレンズの着用は好ましくない。
- ・過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わないこと。

保管

- ・法規に従って、耐火構造、危険物施設に保管する。
- ・消防法危険物1, 6類と混載してはならない。
- ・日光の直射を避ける
- ・通風の良いところに保管する。
- ・火気、熱源から遠ざけて保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

[管理濃度、許容濃度]

情報なし

[設備対策]

- ・腐食性物質に、作業者が直接触れたり、暴露したりしないような配慮をすること。
- ・屋内作業の場合、作業者が直接暴露されない設備とするか、全体換気装置または、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備にすること。

化学物質等安全データシート(MSDS)

〔保護具〕

呼吸器の保護具

- ・密閉された場所では送気マスクを着用する。

手の保護具

- ・有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。(ウレタン製等)

目の保護具

- ・取り扱いには保護メガネを着用すること。

皮膚及び身体の保護

- ・取り扱い場合には、皮膚を直接曝露されないような衣類を着けること。また、化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

性状(状態、色)	:透明無色液体
臭い	:特異臭
粘度	:4.4mPa・sec
引火点	:111℃ (クリーブランド開放式)
比重(密度)	:1.055g/cm ³
溶解度	:水に対する溶解性;不溶 :有機溶剤に対する溶解性;可溶

10. 安定性及び反応性

安定性(危険有害反応可能性)

- ・通常の保管及び取扱いの条件では安定と考えられる。

避けるべき条件

- ・光

混触危険物質

- ・過酸化物の混入

危険有害な分解生成物

- ・情報なし

その他の危険性情報

- ・自己重合性があり、熱、光などにより暴走反応を生じる事がある。

11. 有害性情報

〔生殖毒性〕

データなし。

〔呼吸器感作性又は皮膚感作性〕

データなし。

〔生殖細胞変異原性〕

データなし。

〔発がん性〕

データなし。参考データ(IARC、がん原性) 3:人に対する発がん性については分類できない

12. 環境影響情報

化学物質等安全データシート(MSDS)

一般注意事項

- ・漏洩、廃棄等の際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

生態蓄積性

- ・情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・廃インク、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
- ・容器、機器装置を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- ・排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

汚染容器及び包装

- ・空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
- ・許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする。

14. 輸送上の注意

取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

国連番号 (UN No.)	:3082
国連輸送名 (Proper Shipping Name)	:環境有害物質(液体)(他に品名が明示されているものを除く。)
クラス (Class)	:クラス9 その他の危険物質及び物品
容器等級 (Packing Group)	:III

〔国内規制〕

陸上規制情報	:消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。
海上規制情報	:船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空規制情報	:航空法の定めるところに従うこと。

〔国際規制〕

海上規制情報	:IMO/IMDG の規定に従うこと。
航空規制情報	:ICAO/IATA の規定に従うこと。

〔補足説明〕

※5Lまたは5kg以下の製品は以下の特別規定が適用可能である。

- 1) ICAO/IATA (A197)
- 2) IMDG (2.10.2.7)
- 3) ADR (SP 375)

15. 適用法令

消防法	:第4類 第3石油類(非水溶性)危険物等級III
毒物および劇物取締法	:該当しない
労働安全衛生法	:名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第

化学物質等安全データシート(MSDS)

	18条の2別表第9)該当しない
海洋汚染防止法	:危険物船舶運送及び貯蔵規則 告示別表第1 環境有害物質
外国為替及び外国貿易法	:輸出貿易管理令別表第1の16項に該当するので、経済産業省のガイドラインの参照や事前相談が望ましい
船舶安全法	:有害性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	:その他の有害物件(施行規則第194条危険物告示別表第1)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)2010年3月31日まで適用	:該当しない
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)2010年4月1日より適用	:該当しない

16. その他の情報

参考文献

国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版
 Registry of Toxic Effects of Chemical Substances(RTECS)
 作業環境評価基準
 産業衛生学会雑誌
 2001 TLVs and BEIs(ACGIH)
 米国連邦規則集(OSHA)
 IARC Monographs on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans(IARC)
 法規制物質リスト(日本ケミカルデータベース)
 ケミカルデータベース(日本ケミカルデータベース)
 GHS分類結果データベース(製品評価技術基盤機構 NITE)
 CHEMGOLD2 (ChemWatch)

本データシートは、作成時または改定時において、製品及びその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂致します。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。本製品を当社が認めた材料以外のものと混合、当社が認めた使用以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。

改訂履歴

Ver.	日付	項目No.	内容
1.0	2010/12/24		新規発行
2.0	2016/12/20	1 14	メールアドレス変更jp⇒com、担当部署名変更、担当者名削除 UN3082補足説明追記